

## 地図に親しむ機会を増やすために

群馬県藤岡市立小野小学校 飯野 聡

## 1. はじめに

私が子どものころは、世界の国名とその首都を全部暗記している子がいたりして、そんな友達を目の当たりにすると自分も覚えてみようと思ったりしたものです。そんな子が年々減っていくのはどうしてでしょうか？

平成14年度から始まる新学習指導要領では、社会科の授業時数も減り、楽しい社会科を实践することが厳しい状況になることが予想されます。当然、地図帳を活用する時間も減りますが、そんな現状でも社会科を楽しんでもらいたい気持ちでいっぱいです。ここでは、ささやかですが地図に親しむ実践を紹介させていただきます。

## 2. 実践例

5年生の社会科では、日本の産業についての学習を行います。その単元に合わせ、いろいろな都道府県があることを知ってもらう意味を含めて『私はどこの都道府県クイズ?』を実施しました。これは

- ①クジで一人ひとりが自慢する都道府県を決める。
- ②担当の都道府県の自慢できるものを自分で探す。
- ③社会科の時間にクイズを出題し、都道府県を当てる。

という簡単なものです。

農業の単元での実践例－A君の出題から－

私は地図帳の17・18ページの県です。

私は何県でしょう？

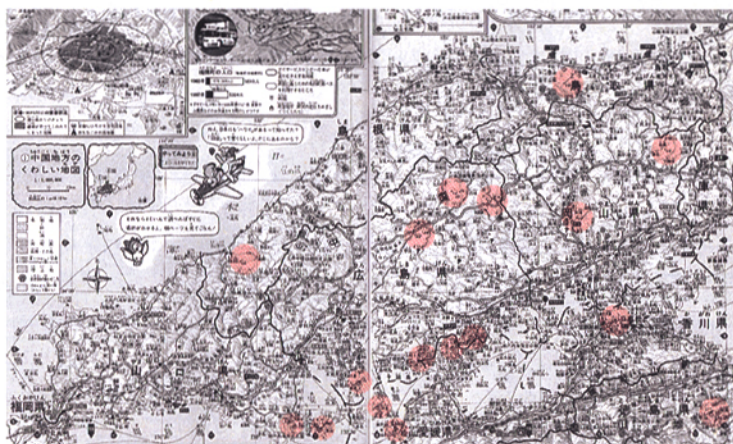
私のところではみかん作りをしています。

私のところには美味しい肉牛もいます。



児童への助言のポイントとして、いくつか条件を与

えました。まず、地図帳の範囲を限定すること（出題する側も答える側も見つける時間を短縮するためです）。次に、絵記号を使って説明できること（だれでも絵を見ればわかるからです）。最後に、条件となる絵記号は2～3個出題すること（都道府県を限定する



(帝国書院『小学校社会科地図帳(三訂版)』p.17～18)

のに役立つからです)。帝国書院の地図帳には絵記号がたくさん載っています。これを使うことで地図嫌いの児童も抵抗なく都道府県探しにのめりこんでいました。短時間で出題・解答ができますので、授業の始めに2～4人くらいの出題が可能でした。

農業にかぎらず、水産業、伝統工業、工業、運輸などその単元ごとに条件を設定することで、さまざまなクイズを一人ひとりの児童が作成し、社会科の授業の始まりはクイズ大会で盛り上がりました。3学期の国土の勉強では、絵記号から離れ、平野・山地・河川湖・島などを出題の対象としました。

児童の出題したカードは教室内の日本地図に貼り、いつでも見られるようにすることで、都道府県理解の一助としました。今では日本地図が隠れるほどになりました。

## 3. おわりに

特に変わった実践ではありませんが、年間を通し継続することで嬉々として都道府県を探す児童の姿が見られるようになり、「地図帳が少しずつ好きになったのかな?」と思いました。

また、これから始まる『総合的な学習の時間』にも有効に地図帳を活用していけたらと思っています。